

次の問3～問12については5問を選択し、答案用紙の選択欄の問題番号を○印で囲んで解答してください。

なお、6問以上○印で囲んだ場合は、はじめの5問について採点します。

問3 原価計算システムの再構築に関する次の記述を読んで、設問1～3に答えよ。

E社は、電子部品メーカーである。E社の工場では、製品の製造原価を計算し、分析するシステム（以下、原価計算システムという）を再構築することになった。今回の再構築では、より正確な原価を、より短時間で分析できるシステムが求められている。情報システム部のF君は、新原価計算システムの要件定義を担当している。

〔製造原価の分類〕

F君はまず、製造原価を分類した。製造原価は、材料費、労務費、経費に分けられ、さらにそれぞれが、直接費、間接費に分けられる。

E社の主な費用には、次のものがある。

- | | |
|--------------|--------------------|
| ① 営業担当者の出張旅費 | ② 外注加工費 |
| ③ 広告宣伝費 | ④ 工場管理スタッフの給料 |
| ⑤ 工場機械の減価償却費 | ⑥ 工場消耗品費 |
| ⑦ 主要材料費 | ⑧ 直接作業員の直接作業時間分の賃金 |
| ⑨ 本社スタッフの給料 | ⑩ 本社の光熱費 |

これらの費用のうち、製造原価にあたるものを選び出し、表1のとおり分類した。

表1 製造原価の分類

	直接費	間接費
材料費	(略)	a
労務費	(略)	b
経費	(略)	c

〔現状の製造原価計算〕

F君は、工場で製造している2種類の組込みボード、製品Aと製品Bの製造原価を現状の原価計算システムで確認した。先月の実績を比較してみると、表2のとおりであった。両製品ともハードウェアは同じである。ソフトウェアも同様のものを使っているが、製品Aでは得意先のニーズに応じてソフトウェアを変更するのに対し、製品

B では標準化されていて変更はしない。製品 1 個当たりの直接材料費と直接作業時間、直接作業員の時間当たり賃金は、製品 A、B と同じであった。間接費は、合計 18,000 千円を、直接作業時間を基に配賦している。

表 2 製品 A、B の製造原価の比較（金額は千円単位）

項目	製品 A (合計)	製品 B (合計)	製品 A (1 個当たり)	製品 B (1 個当たり)
販売数量 (個)	800	1,000	—	—
売上高	24,000	25,000	30	25
直接材料費	1,600	2,000	2	2
直接労務費	2,400	3,000	3	3
直接費計	4,000	5,000	5	5
間接費計	8,000	10,000	10	10
製造原価計	12,000	15,000	15	15
d	12,000	10,000	15	10

注 ここで、月初・月末における仕掛品と製品の在庫に変動はないものとする。

F 君は、本来、ソフトウェアが標準化されている製品 B の方が、製造単価（1 個当たりの製造原価）が安くなるべきなのに、製品 B の製造単価が、製品 A と同じになっていることに疑問を覚えた。そこで、製品 A と製品 B の製造単価が同じになっている原因を調べた上で、より正確な把握ができるよう新しい原価計算の方式を検討した。

〔新原価計算システム〕

F 君は、間接費に着目し、新原価計算システムでは、間接費を、アクティビティ（以下、活動という）を基準に割り当てる方法を提案することにした。具体的な手順は、次のとおりである。

- (1) 間接費を構成している活動を列挙する。
- (2) 活動ごとの間接費を算出する。
- (3) 活動ごとに測定の単位を決める。
- (4) 原価計算対象の製品が消費した単位数で案分することによって、間接費を製品に割り当てる。

F 君は、この方法で、先月の間接費 18,000 千円を活動ごとに分類し、表 3 のとおりまとめた。

表 3 活動ごとの間接費

活動	設計変更	調達	製造	製品検査
活動ごとの間接費（千円） （18,000 千円の内訳）	4,000	2,000	9,000	3,000
測定の単位	設計 変更件数	e	機械 使用時間	検査回数
製品 A 平均（単位数）	4	10	90	20
製品 B 平均（単位数）	1	10	60	10

表 3 から求められる先月の製品 B の間接費の合計は、f 千円となった。

E 社では、設計に関する情報は設計管理システムで、調達に関する情報は購買システムで、製造に関する情報は工場の稼働管理システムで、製品検査情報は検査管理システムで、それぞれ管理している。F 君は、各システムの担当者に依頼し、先月消費した単位数のデータを、それぞれ、手動でダウンロードし、所定の書式に加工してから送ってもらった。多くのシステム担当者から、手間が掛かるので、定期的にデータを提供する必要があるなら、担当者の手を煩わせない方法を考えてほしいと言われている。

F 君は、現在、新原価計算システムの要件の詳細をまとめている。

設問1 表1中の ～ に入れる適切な字句を〔製造原価の分類〕の中から選び、①～⑩の番号で答えよ。

設問2 〔現状の製造原価計算〕について、(1)、(2)に答えよ。

(1) 表2中の に入れる適切な字句を解答群の中から選び、記号で答えよ。

解答群

- | | | |
|---------|----------|--------|
| ア 売上総利益 | イ 営業利益 | ウ 経常利益 |
| エ 限界利益 | オ 税引前純利益 | |

(2) 本文中の下線部に関して、製品Bの1個当たりの間接費が製品Aと同じなのはなぜか。原価計算上の観点から、25字以内で述べよ。

設問3 E社の新原価計算システムについて、(1)～(3)に答えよ。

(1) 表3中の に入れる適切な字句を解答群の中から選び、記号で答えよ。

解答群

- | | | |
|---------|---------|---------|
| ア 売上金額 | イ ガソリン代 | ウ 製品在庫数 |
| エ 調達業者数 | オ 発注書枚数 | |

(2) 各システム担当者の手を煩わせないようにするために、新原価計算システムの構築に当たって、考慮すべきことを、30字以内で述べよ。

(3) 新原価計算システムで計算すると、製品Bの間接費の合計は幾らになるか。

に入れる適切な数値を答えよ。